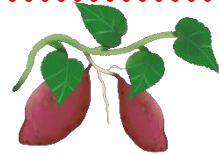


むくのきだより 11月号



令和7年10月30日 港区立赤羽幼稚園 園長 中村 美奈子



国際理解ウィーク ～世界とつながるワンデートラベルデー～

副園長 相田 幸英

つい先日まで強い日差しが降り注ぎ、少し動くと汗ばむ気候が続いていましたが、10月に入ると、肌寒い日が増え、園庭の木々が夏から秋、冬に向けて変化し始めています。子供たちは、自分たちで決めた秋から冬に向けての栽培物の苗植えや種まきをして、生長を楽しみにしています。

10月16日(木)から18日(土)までの3日間の幼稚園公開では、たくさんの保護者の皆様を始め、幼稚園入園を検討されている方や地域の方にお越しいただきました。子供たちの成長の姿を見ていただくとともに、幼稚園の教育活動を知っていただく機会となりました。これからも、様々な方法で教育活動や子供たちの学びを発信し、保護者や地域の皆様と共有していきたいと思います。

さて、港区立幼稚園では昨年度から週3日、幼稚園にネイティブ・ティーチャー(NT)を派遣し、幼児期からの国際理解教育を推進しています。子供たちは外国の歌や絵本など英語による遊びや活動をとおして、多様な文化に触れたり英語によるコミュニケーションを経験したりしています。今年度赤羽幼稚園は、10月14日(火)から18日(土)の1週間を国際理解ウィークに設定し、10月17日(金)には、そのメインの活動となる「幼稚園発！✈世界とつながるワンデートラベルデー」を実施しました。「ワンデートラベルデー」は、子供たちがこれまで親しんできた英語を使って多くのNTとのやりとりを楽しむとともに、様々な国の文化への興味・関心をもつことを目的としています。本園では、地域や園児と関係のある、アメリカ・中国・キルギス・イタリアの4つの国に海外旅行に行くという設定で行いました。8人のNTが来園し、はじめは緊張した表情をしていた子供たちでしたが、機長に扮するNTと飛行機に乗ったつもりで簡単な会話をしたり、お店屋さんとなるNTと「Steak, please.」「Thank you!」「See you.」などと、各国の食べ物を買うやりとりをしたりすることを繰り返すと、硬かった表情が和らぎ、NTの声掛けに応答したり、自分からNTに関わったりする姿が増えていきました。海外旅行ごっこを終えてからも、自分からNTを遊びに誘い、一緒に縄跳びやボール遊びなどを楽しむ姿が印象的でした。

NT派遣2年目となり、子供たちがNTと生活を共にすることにより、英語を身近に感じたり、様々な文化に触れたりしながら、世界にはたくさんの国や文化、言葉が存在していることや多様な人がいることを知ることにつながっているように思います。今後も教員とNTが共に試行錯誤しながら、子供たちの国際理解の芽生えを培う活動を工夫してまいります。

～「国際都市・港区」の実現～

国籍の異なる人々が互いに文化的違いを認め合い、相互理解を深めながら一人ひとりの人権を尊重し、地域社会の一員としてよもに考え、行動し、支え合う「多文化共生社会の実現」をめざす。

